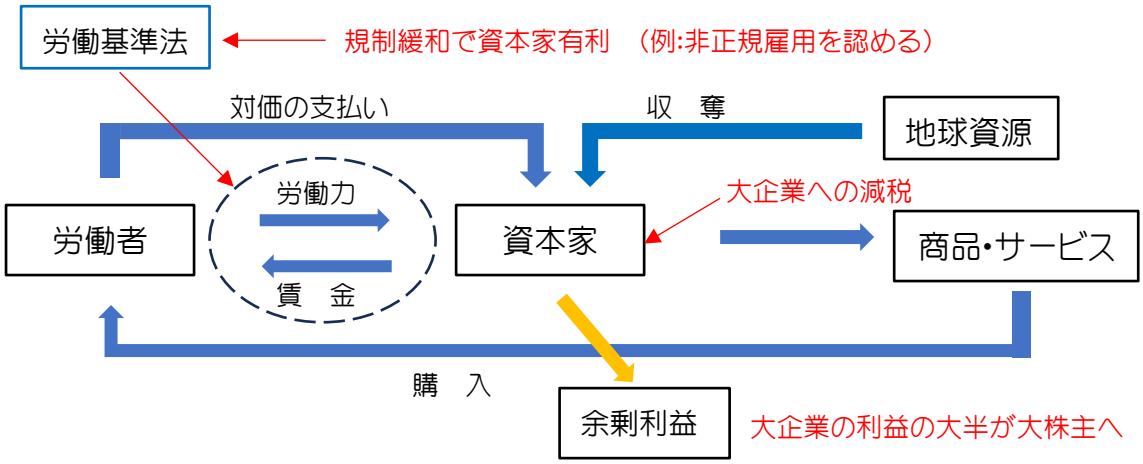
——産業革命以降の新世紀（人新世）では，成長至上を唯一無二のように争う資本主義が地球環境の破壊をもたらしています．とくに，1970 年代に始まった米国の新自由主義（ 株式資本主義 ・市場原理主義 ）が地球環境の破壊に拍車をかけています．この破壊を止めて持続可能な社会を実現するためには，地球レベルでのコモン（公共財）である地球・自然環境・社会的インフラを管理しなければならないことをマルクスは述べています．マルクスの全資料を調べて 150 年も前のマルクスの主張を，世界に先駆けて明らかにしたのが人新世の「資本論」と言う本です．——

*株式資本主義 ＝ 端的に表現するならば，労働者の利益の軽視，株主の利益の最大化を目指す自由競争主義
*市場原理主義 ＝ 政府による規制の排除（小さな政府），民間の市場に委ねる自由競争主義

「新自由主義」とは何か



物財・労働力・不動産・為替・資本（株式・債券）　市場

新自由主義　＝　市場原理主義

小さな政府・規制の撤廃

大企業・資産家→ 政治家→ 規制緩和の名目で法律を改正

株取引で利益を上げる

多国籍企業やヘッジファンド
（物言う株主など）

大株主として企業の株価を上げる短期的利益の追求を目指す「金融貴族」の創出

1970 年代に始まった米国の新自由主義（株式資本主義・市場原理主義）が世界に蔓延

日本では小泉内閣が米国の新自由主義政策を押し付けられ，対米従属的経済政策をとり，郵政民営化をした．

大企業に有利となる法律改正などを経て資産家に有利な経済政策をとった結果，企業の利益は一般国民に還元されず「1億総中流から多数の低所得者層を作った．

2023 年 7 月 4 日，厚生労働省から『国民生活基礎調査』で公表された最新値は，21 年の相対的貧困率（等価可処分所得が中間値の半分未満の世帯員の割合）15.4％．経済協力開発機構（OECD）が公表する各国の貧困率の最新値でみると，米国（15.1％），韓国（15.3％）に抜かれ先進国最悪となった．

個人の自由尊重　グローバル化　IT 革命 → 新自由主義　を肯定する傾向になる

新たな科学技術の発展 ・ 生産力の向上
新たな社会的条件（政治的 ・ 経済的 ・ 文化的）　人間の生活と文化の豊かさをつくる

［参考文献］（1）新自由主義の帰結　― なぜ世界経済は停滞するのか ： 服部茂幸　岩波新書　1425
（2013.5 第 1 刷発行）
（2）「新自由主義」とは何か ： 友寄英隆　新日本出版社　（2006.8 第 1 刷発行）

人新世の「資本論」　斎藤幸平　（専門：経済思想，社会思想）　より

度を越した「成長至上資本主義」 → 地球環境破壊をもたらした
利潤追求資本主義（もっと成長・もっと利益を）を止める
「SDGs の行動指針」　は　政府と企業のアリバイ作りに過ぎない

産業革命以前の CO_2 濃度　280ppm → 2016 年の CO_2 濃度　400ppm を超えた
産業革命（資本主義の本格始動）　　CO_2 排出増大

地球環境破壊 ← CO_2
↑
途上国の森林・原野 → 作物 → 先進国へ輸出 → 富める国家・個人をより富ます

- 気候変動が急激に進んでも「超富裕層」はこれまでの放埒な生活を続けることができる
- 労働者も地球環境も搾取の対象

マルクスの復権

- 「マルクス・エンゲルス全集」は本当の意味でのマルクス全集ではない
- 出版されていないマルクスの「研究ノート」が無視されてきた ＊

コモン（公共）　社会的に人々に共有され，管理される公共財［富］
- 地球
- 自然環境
- 社会的インフラ

アメリカ型 新自由主義
（地球環境破壊）

ソ連型 国有化主義
（ソ連型のコミュニズムの失敗）

マルクスのコミュニズム ＝（生産手段 ＋ 地球）を管理するコミュニズム

マルクス（1818-1883）が目指していたもの

		経済成長	持続可能性
1840 年代－1850 年代	生産力至上主義	○	×
1860 年代	エコ社会主義	○	○
1870 年代－1880 年代	脱成長コミュニズム	×	○

＊ 斎藤幸平氏は資本主義社会における地球環境破壊を止めるにはどうすればよいのか，マルクス自身の執筆による「マルクス資本論」第 1 巻（1867 年）と遺稿を基に，エンゲルスが執筆出版した第 2 巻，第 3 巻と，これまで人が振り向かなかったマルクスの「研究ノート」を詳細に研究することによって，マルクスの資本主義の本質を明らかにしている．

［参考文献］　人新世の「資本論」：　斎藤幸平　集英社新書　1035 A（2020.9 第 1 刷発行）